



人と社会と自然との共生に
貢献できる人材づくり



異なる視点を持つ

多角的な視点から思考を深めます。
「環境」と「経営」の2つの視点で様々な課題に取り組みます。

新しい場所に行こう

鳥取をフィールドに、人、社会、自然、文化、課題などに触れることで
新しい発想力を育みます。

複数専攻で学ぼう

幅広い知識が未来へ羽ばたく大きな翼になります。

さあ、境界を越えよう

そこには、あなたの可能性を広げる
新しい毎日が待っています。



公立鳥取環境大学 学長

江崎 信芳

1973年に京都大学農学部農芸化学科を卒業後、同大学大学院に進学。79年に京都大学博士(農学)を取得。その後、京都大学化学研究所に所属。83年に米国マサチューセッツ工科大学化学部への留学を経て、教授、所長に着任する。京都大学理事・副学長、名誉教授、放送大学京都学習センター所長、特任教授を歴任し現在にいたる。

特別
サイト



常識を超えよう

鳥取で学ぶということ

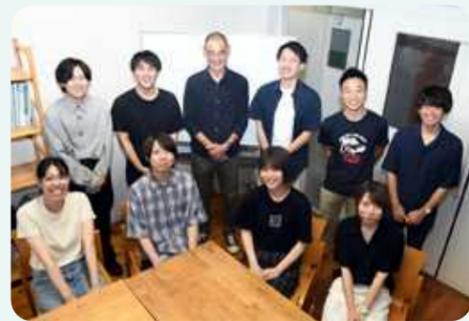
自然が豊かである一方で、課題先進県でもある鳥取県で学ぶということは、過疎や高齢化など、現代社会が抱える課題に触れることであり、便利な近代社会が失ってしまった「本当の豊かさ」と出会うことでもあります。環境と経営2つの視点を持ちながら、人と社会と自然が共生する「本当の豊かさ」について考えられる人材を育成します。



自分を超えよう

小規模大学で学ぶということ

皆さんはこれから、多くの経験を通して学んでいく中で、時には立ち止まることもあるでしょう。一人で乗り越えられないときは、周りの人を頼ってください。本学は、小規模な大学だからこそ、学生一人ひとりに教職員の目が行き届きやすい環境で学ぶことができます。また、学生同士の協力や助け合いが生まれ、壁を乗り越える力を養うことができます。



フィールドを超えよう

複数の領域を学ぶということ

本学では、学びの土台を築く「人間形成教育」をはじめ、持続可能な社会に貢献する「SDGs」17の目標に関する多彩な科目、そして主専攻以外の複数の専門知識を修得できる「副専攻制度」を採用しています。複数の領域の知識をもとに課題解決に向け、新たな視点と柔軟性を発揮できる人材の育成を目指しています。



〈領域を超える多彩な学び〉



CONTENTS

- 05 境界を超えよう 卒業生インタビュー
- 06 境界を超えよう 在学生インタビュー
- 07 基本理念・特色
- 08 学部・学修分野・教職課程

09 環境学部

19 経営学部

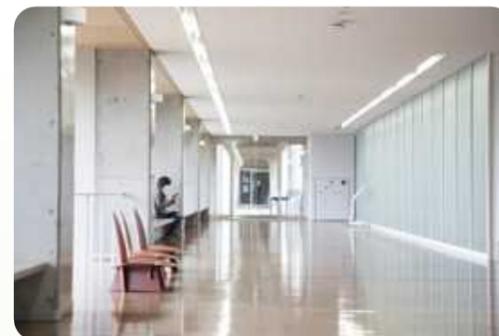
- 29 学びの特色1 人間形成教育
- 32 学びの特色2 プロジェクト研究
- 33 学びの特色3 副専攻制度
- 37 学びの特色4 国際交流
- 38 学びの特色5 SDGs(持続可能な開発目標)

- 39 大学院
- 40 附属研究機関
 - ・サステナビリティ研究所
 - ・地域イノベーション研究センター

41 就職支援

- 45 学生生活・経済支援
- 46 在学生の声
- 47 キャンパスマップ
- 49 キャンパスライフ
- 50 クラブ・サークル
- 51 とっとりライフ
- 52 在学生居住データ
- 53 在学生出身地

54 入試情報



卒業生インタビュー

特別
サイト ▶ 

鳥取県庁 農林技師

環境学部
大森 祐貴さん
2018年度卒業
(愛媛県出身)自分を成長させてくれた
鳥取県に貢献したい

現在は山の中に林道(木材を搬出するための道)を作る仕事をしており、設計や積算、発注、現場の指揮などを行っています。公立鳥取環境大学に進学したのは、オープンキャンパスに参加し、自分の関心のある自然環境以外にも海洋環境や住宅環境など、いろいろな分野の先生がいることに魅力を感じたことがきっかけです。「自分を成長させてくれた鳥取県に貢献したい」という思いで、鳥取県の農林技師の仕事に就きました。



株式会社 鳥取銀行

経営学部
奥村 美鈴さん
2017年度卒業
(鳥取県出身)地域とともに成長したい人に
寄り添える行員が目標

事業のための融資や助成などについて法人や個人事業主に対するサポートを行っています。新しくカフェを開業したいという事業主の方に対しては、融資だけではなく、資金の管理方法、決済方法など店舗運営に関するアドバイスもさせていただきます。ともに成長していくためにお客様の声を聴くこと、必要な情報をキャッチするアンテナを張っておくことを心掛け、お客様が迷わないよう自信を持ってサポートするようにしています。



山崎製パン 株式会社

環境学部
山本 直幹さん
2015年度卒業
(京都府出身)多用な視点で物事を考えることが
コミュニケーションで役立つ

量販店と取引の商談をしたり、店舗で行う催事についてご提案したりしています。提案の際に、商品の魅力だけでなく、環境に配慮していることもしっかりと伝えるようにしています。また、取引先の方との会話では経済・経営に精通していることがコミュニケーションにおいて大切だと思います。大学での学部を越えた学びを通して、多様な視点、俯瞰的に見る力を養えたことは、今の仕事に大いに役立っています。



株式会社 中国銀行

経営学部
守屋 孝洋さん
2017年度卒業
(岡山県出身)経営と環境
2つの視点が強みになる

事業規模拡大や成長のために、取引先の強みや弱みを分析し、それを踏まえたうえで融資などの提案を行います。その際マーケティングの講義で学んだSWOT分析が非常に役立ちます。SWOTとは外部・内部それぞれの強みと弱みを把握し、どの部分に手を加えていくか考察するものです。また、これからの社会で企業が発展していくためには環境への配慮も必要になるため、経営と環境の視点を持っていることは自身の強みになっていると思います。



監査法人に就職

経営学部
今峰 佐紀人さん
2022年度卒業
(京都府出身)環境大には将来に役立つ
幅広い学びがある

簿記についてより知識を深めて、将来は会計の専門家になりたいと思い、公認会計士試験に挑戦。勉強を習慣化したり、理解不足にならないように対策をしたりした結果、在学中に合格できました。公認会計士としての学びはもちろん、企業の考え方や行動の意味を理解することができるマーケティングや、これからの企業経営には欠かせない環境に関する知識など、幅広い学びを通して将来に役立つ対応力を身につけることができました。



▲奨励されている資格を取得すると大学から表彰され、モチベーションもアップ!

在学生インタビュー

特別
サイト ▶ 

1

田中 詩織さん
環境学部(北海道出身)文化の違いが面白い。
留学生との出会いで積極的に

留学生サポーターに参加するようになり、引っ込み思案な性格が大きく変化しました。主な活動は留学生の授業やレポート作成のサポート。学業との両立が不安でしたが、始めてみたら楽しいことばかり。勉強だけでなく、それぞれの国の文化や価値観を聞いたり話したりすることがとても面白く、中国、台湾、マレーシアなどいつの間にか国際色豊かな友人ができました。留学生は日本人と比べ、人との関わりが濃く!教室に知り合いが来たら必ず側へ行き挨拶、お菓子があれば「分け合おう」と声をかけてくれます。人間関係を築くのが苦手でしたが、好奇心が先に立ち、興味が湧いたら話しかける、そんな積極性を身に付けることができました。



2

大崎 蓮さん
環境学部(鳥取県出身)理科を学べば学ぶほど
世界の解像度が上がる

理科の教員をめざして学んでいます。理科の面白さは「学ぶほどに世界の解像度が上がる」ことだと思えます。身の回りの不思議なことに対して、理科を学ぶと説明できるようになります。大学では、どうすれば子どもたちが楽しく勉強できるか具体的な方法について学んでいます。教員として必要な力の一つに、地域の方たちと連携する力があると思います。私が最近やりたいと考えているのは、子どもたちの自習のための環境づくりです。



3

藏永 愛久さん
経営学部(鳥取県出身)人とかかわることが好き。
SDGsに関するイベントも企画

アジア経済に興味を持ち、ゼミでは東南アジアの政治や経済に関する現代史などを学んでいます。そのきっかけは中国留学を決めたことでした。世界に飛び出し、多くの人と交流することで自分の幅を広げたいと考えたのです。私は人とかかわることが好きなので、SDGsに関連したごみ問題の写真展も企画しました。そこでは来場者との対話を通して自分の考えを深めることもできました。今後も人とかかわりながら挑戦を続けていきたいです。



4

横田 凧菜さん
経営学部(宮城県出身)地域に目を向けた
学生主体の活動に参加

地元の大学生が主体となって企画・運営を行う「もちがせ週末住人」という活動に参加しています。鳥取市内だけでなく全国から用瀬町の住民として一定期間暮らしたいという学生を募集。伝統行事や様々な活動に参加しながら地元住民との交流を図る取り組みです。活動に参加したきっかけは、地域経営論という講義を受けて、実際に地域に出て活動したいと思うようになったからです。また、先に参加していた友人の活動も楽しそうだったので、私もやってみたくて始めました。現在、活動の一環として、都市部と地方部のコミュニティの違いについての調査を担当。サークル感覚で、地元の方々や学生との交流も楽しんでいます。



公立鳥取環境大学は 鳥取県と鳥取市が設立した公立大学です

公立鳥取環境大学の基本理念

公立鳥取環境大学は「人と社会と自然との共生」の実現に貢献する有為な人材の育成と創造的な学術研究を行うことを基本理念としています。

公立鳥取環境大学の目的

公立鳥取環境大学は、広く知識を授け、深く専門の学術を教育・研究し、人と社会と自然との共生を実現していくため、豊かな人間性にあふれ、自ら考え行動し、力強く生きる人間を育成します。また、持続的な社会の発展を目指し、地域の自然環境や人と人とのつながりを大切にするローカルな視点を持ちながら、自然環境の保全と人類の経済発展の両面にわたりグローバルに活躍できるバランス感覚に優れた、地域とつながり、地域を担う人材、世界にはばたく人材を育成します。



特色

公立鳥取環境大学の特色

- ### 1 目指す大学像

ローカルかつグローバルに環境と経営を学ぶ大学

「経営」視点をもった環境学、「環境」を意識した経営学がいま求められています。本学で行っている、環境と経営の交わる教育と研究が国内外から注目されており、日本各地から学生が集まっています。鳥取県をフィールドに研究を展開し、地域の発展に貢献する取り組みや、海外の大学と連携する国際交流活動も行っています。


- ### 2 人材育成の目標

10年後、20年後にますます社会で活躍できる知力と人間力に優れた人材を育成

本学では「人間形成科目」を土台に「学部専門科目」を学修します。さらに「プロジェクト研究」で学ぶ意欲や好奇心を引き出すことで知力を高めます。また教員、職員、鳥取の人々との思いやりあふれる交流によって人間力を強化。知力と人間力を備えることで、時代の変化に対応できるたくましい人材を育成します。


- ### 3 学びのスタイル

いつでも利用可能な学生研究室

本学の学生研究室は、1年次からいつでも利用可能です。学生たちは、研究について仲間と議論を深めたり、資格試験対策やレポート作成などに利用しています。全国的にも珍しいスタイルです。

学生と先生との距離の近さが自慢

学生研究室と教員研究室の距離は廊下をはさんで約2m。小規模な大学のため教員の目も行き届きやすく、親身なサポートを受けることができます。物理的にも精神的にも「先生との距離が近い」、さらに「面倒見がいい」との学生の声が多く寄せられています。

就職活動に役立つプログラム

自ら学ぼうとする力や仲間とのチームワークが身に付くプロジェクト研究、異文化にふれる海外への短期・長期留学、実際の仕事を体験するインターンシップ、資格取得を支援する学内講座など、就職活動に役立つプログラムを用意しています。

2つの学部と7つの学修分野 1つの教職課程をキーワードで紹介

環境学部

定員 150名

「環境」を実践的に学ぶフィールドワークに1年次から取り組みます。自然環境保全、循環型社会形成、人間環境といった学修分野について幅広い関連科目を学びます。また、教職課程も設置しています。環境問題解決能力をはじめ、人間力を育成していきます。

自然環境保全分野

植物/環境アセスメント/生態系/動物/地質/農林水産業/海洋/気象予報士/地球システム/森林インストラクター/化石



13ページへ▶

循環型社会形成分野

資源循環マネジメント/水/バイオマスエネルギー/海洋エネルギー/微生物/大気汚染/リサイクル



14ページへ▶

人間環境分野

建築/歴史遺産保全/インテリアコーディネーター/都市計画/農村/エコハウス/環境と文化/グリーンデザイン



15ページへ▶

教職課程

理科の教員/教育実習/科学実験/進路指導/理科指導法/心理/行政



16ページへ▶

経営学部

定員 150名

多様なビジネス社会で活躍するために必要なマネジメント基礎力をはじめ、企業、会計・ファイナンス、地域、情報の視点から経営学を修得。鳥取県を学びの舞台に地域課題の解決能力、提案力や実行力を養います。

企業経営分野

組織マネジメント/商品開発/マーケティング/ブランド/経営分析/宅地建物取引士/イベントに出店



23ページへ▶

会計・ファイナンス分野

ファイナンシャルプランナー/簿記・会計/税理士/管理会計/公認会計士/金融機関/財務部門



24ページへ▶

地域経営分野

地域資源/地方行政/旅行業務取扱管理者/地域振興/中小企業診断士/地域ブランド/観光



25ページへ▶

経営情報分野

データ分析/プログラミング/情報通信技術/システム運用/コンピュータスキル/基本情報技術者/インターネット



26ページへ▶